

【台北3日共同】台湾の李登輝前総統(84)に近い筋は三日、前総統が五月末か六月初めに観光のため訪日する準備を進めていることを明らかにした。実現すれば、李氏を「台湾独立勢力の代表的な人物」とみる中国政府の反発は必至だ。

日本の外交筋は「具体的に計画は聞いていないが、政治目的でなければ、反対する理由はない」としており、一般の台湾人観光客と同様に査証(ビザ)なしの渡航を認めるとみられる。高齢で心臓が悪い李氏の健康を懸念する声もある。

李氏に近い筋によると、李氏の日程は十日間以上で、松尾芭蕉の「奥の細道」ゆかりの東北地方などを訪問するほか、初めて東京での講演を予定している。

李氏は終戦前、京都帝大(現京大)で学んだ親日家で日本語が堪能。二一年、心臓病治療のため約十六年ぶりに訪日。四年末に再訪日。昨年五月と九月にも訪日を計画したが、健康状態を理由に延期していた。

2007年5月4日付 中国新聞

<http://www.chugoku-np.co.jp/News/Sp200705040170.html>